

☐ イギリス保守主義

1. モンテーニュ

1580.『随想録』

習慣と理性は区別できるものではなく、人為による政治の革新は、理性の傲慢である。
社会生活における習慣の重要性

2. ヒューム

人間の本性は利己的である（ ホッブズの人間観）

秩序 = 人為的制度を求める。

しかし、人は理性よりも権威によって支配されるため、人為には限界がある。
統治には、時間によって権威を獲得した慣習が重要である。
= 政治における超越的な理念への懐疑

3. バーク

1770.『現代の不満の原因を論ず』

英国憲法の中に実現されている王政、貴族政、民主政の混合政体
= 抑制均衡の原理

ジョージ3世の専制 vs政治家（貴族）+ 民衆

政治家は、民衆の信頼を得、世論を反映しなければならない。

政党制による政治家の結束

「国家共同体は家族より成り立っているが、自由な国家共同体はまた
政党より成り立ってもいる」

1790.『フランス革命の省察』

社会における不平等

財産と「権利」の不平等は、市民社会的人間の本質である。 資料1、2

市民社会と権利

各人の基本的権利の放棄によって、市民社会が成立してからは、
統治は慣習に従うべきである。 資料3

市民社会における権利は、形而上学的、抽象的なものではない。
自由と抑制は、共に人間の権利である。 資料4、5、6

有機的秩序としての自然 = 社会

多様性における統一性 資料7
多様な「部分」の利害対立の中から、普遍的調和と自由が生まれる。

具体的実践としての政治

政治は、先験的原理の実現ではなく、歴史的現実の保存や改良の実践

資料8